

# ア ー ろ び っ と

海外研修 K Y O のあけぼの会

表題「てるびっ」とはインドネシア語（京都府友好国）で

「あけぼの」の意味です

京都府の「海」「森」「茶」をモチーフにしています

No. 30

2024 / 3

# — はじめに —

## ご挨拶



海外研修 KYO のあけぼの会  
会長 田中 田鶴子

皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

海外研修 KYO のあけぼの会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023 年の自主研修は、日本の物流を支える海運や造船を学ぶため「日本の生命線・海運を支える造船」をテーマに、瀬戸内地方の造船所を訪ねました。今回の研修では、尾道造船株式会社様や大和ミュージアムを訪ね、海運や造船業の最新事情や取り組みについて、見て・聞いて学びを深めました。特に次世代を担う海事人材の確保や育成において、女性や若者が造船業界に就業し活躍できるよう、さまざまな取り組みや支援をしていることが印象的でした。

京都府においても、地域や企業などあらゆる分野で女性や若者が活躍できるよう、オール京都で取り組み、次世代へのバトンをつなげていきたいと強く思う

次第です。

今回の成果を、本紙に掲載しておりますので、ご一読ください。

当会は 1989 年以來、リーダーとしての資質向上や、女性関係団体のネットワーク作り、さらに国際交流の促進をめざして活動を続けてまいりました。その間、社会環境も大きく変化し、今では組織や社会の発展には女性の活躍が不可欠な時代になりました。今後とも京都府が推進される共生社会の実現の一助を担うべく、歩を進めてまいりますので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

## — 海外研修 KYO のあけぼの会 2023 年度総会・研修会次第 —

日時：2023年4月14日(木)11:00~14:00 場所：京都ホテルオークラ「翠雲の間」

### 総会

1. 開会
2. 田中 田鶴子 会長 挨拶
3. 来賓紹介
4. 来賓祝辞 京都府文化生活部長  
益田 結花 様
5. 議長選出
6. 議事
  - 1号議案：2022年度事業及び決算報告  
2022年度監査報告
  - 2号議案：2023年度事業計画及び予算(案)
7. 閉会





## ご挨拶



京都府知事  
西脇 隆俊 氏

「海外研修KYOのあけぼの会」の皆様におかれましては、日頃から京都府政の推進につきまして、御理解と御協力を賜っておりますことに、心よりお礼申し上げます。

貴会におかれましては、今年度、「日本の生命線 海運と造船」をテーマに尾道など瀬戸内地方を訪問され、日本の物流を支える海運や造船の大切さ、また造船技術の歴史について学ばれました。現在のグローバルな社会経済システムの混乱や国際秩序・安全保障の不安定化は世界的規模で影響を及ぼしており、歴史的とも言える社会の大きな転換点を迎える中で、島国である日本にとって物流を支える海運はまさしくこの度の研修テーマのとおり日本の生命線かと存じます。地域社会の女性リーダーとして京都を牽引いただいております皆様がこのような重要課題について研修を通じて学んでいただき、研修の成果をKYOのあけぼ

のフェスティバルで発表し、多くの参加者と共有いただくことは、地域の女性活躍並びに女性の関係団体のネットワークづくりに寄与するものであり、深く敬意を表します。

京都府といたしましても、今年度からスタートさせた新しい京都府総合計画に基づき、性別にかかわらず誰もが自らの意思によって社会参画できる京都の実現を目指し、多様化する生き方や各ライフステージに応じたきめ細かな支援を実施してまいりますので、皆様方の御協力をお願い申し上げます。結びにあたり、地域社会活動のリーダーとしての資質向上をめざし、女性関係団体のネットワークづくりや国際交流の推進を理念として活動しておられる「海外研修KYOのあけぼの会」様のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝を心より祈念申し上げます。

## 研修会

### 「海事産業の動向～日本を支える造船、海運」

講師：一般財団法人 運輸総合研究所  
主席研究員 会長特別補佐 城福 健陽 様

私たちの生活を支える様々な物資の多くが、海外からの海運による輸入に依存していることから、造船業の持つ役割（地域経済・経済安保・海上警備&防衛を支えること）や、我が国外航海運業の現況について、様々な統計データをもとに、ご説明いただきました。

海事産業は、海運、造船・船用工業とともに、船員の確保も大きなウエイトを占めていることや、海運業においても、地球環境への配慮から、カーボンニュートラルに向けた取組や、ゼロエミッション船の開発・実証が行われていることなど、初めてお聞きすることも多く、改めて海事産業への理解を深めることができました。



主な資源の対外依存度



#### 主な物資の対外依存度



# 研修のテーマと成果

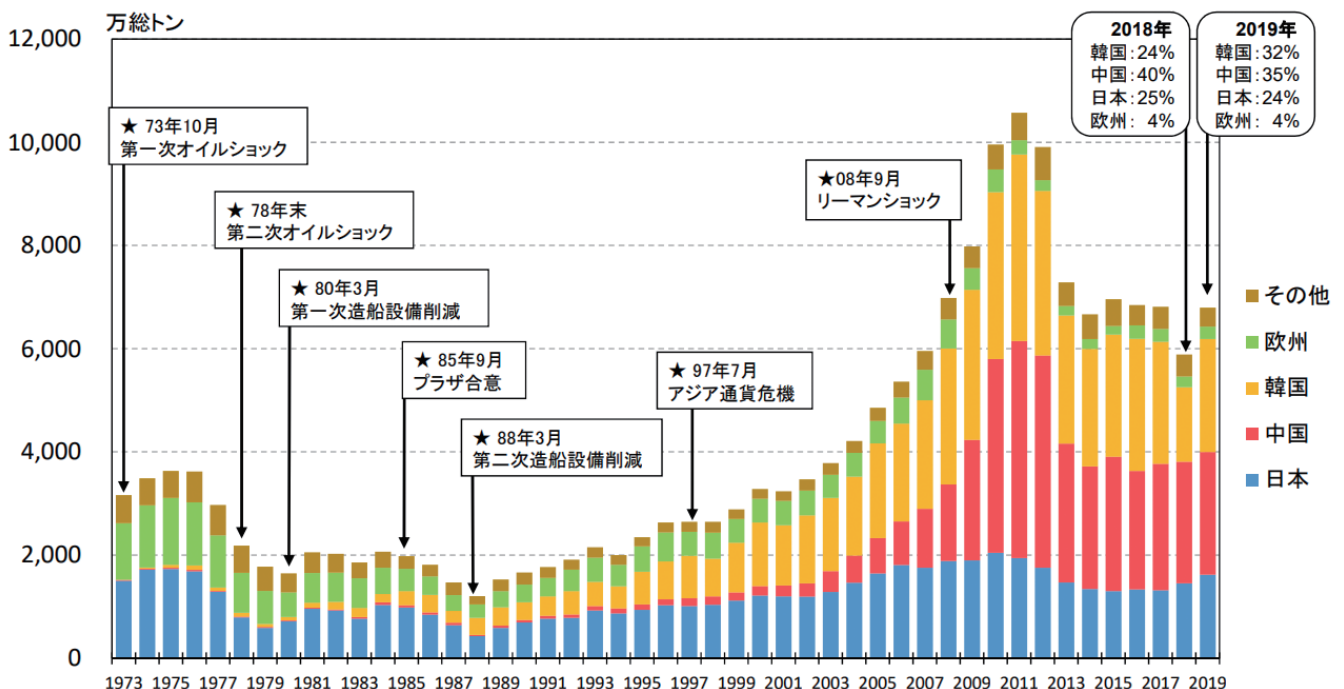
## 日本の生命線 海運と造船 ～造船技術の広がりと未来～

日本の主な資源の対外依存度は、「エネルギー」はもちろん「衣料品」「食」「住」と、生活に欠かせないものが、「米」などの一部の食料品を除いて、軒並み90%以上となっています。わが国の貿易に占める海上貨物（海運）の割合は99.5%にのぼり、海運はわが国の貿易に不可欠な輸送手段となっています。これが、今年の研修テーマとして海運と造船に着目した理由です。



船舶は、世界で一番大きな工業製品です。今年の研修で、呉に立ち寄った際に最新のコンテナ船に遭遇しました。かつて日本は、世界一の造船大国でした。1954年頃からは、原油タンカーの受注が増大し、1956年には、建造量（年間の進水実績）世界一であった英国を抜き、1995年までは、日本は文字通り世界第一位の造船大国でした。それが、2000年には韓国に抜かれ、2010年には中国が大幅に建造量を増やして世界第一位となり、日本は第3位となって、現在に至っています。

### 世界の造船建造量の推移



出典: IHS Markit

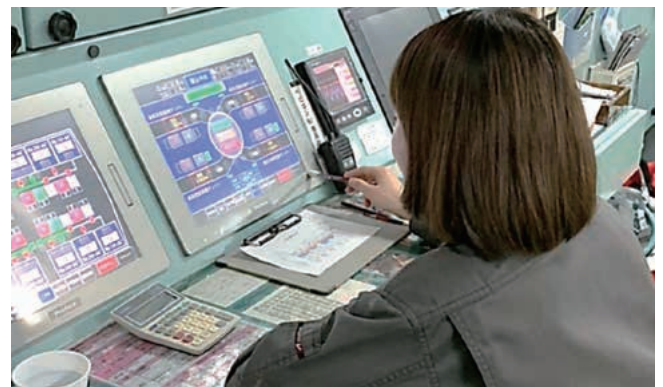
一方で、造船業はすそ野の広い基幹産業で、鉄道・自動車・工作機械・産業用ロボット・通信・ITシステム・環境関連など様々な分野で相互に技術の連携があり、それによってお互いの技術レベルが上がり、日本は世界最高のレベルとなっています。



また、日本が競争力強化のために取組んでいる先進的な事例として、(1) カーボンニュートラルに向けた取組で、船舶燃料の低炭素化に向けてバイオ燃料や合成燃料等を利用する選択肢があります。これは既存の燃料設備や、内燃機関が利用できるメリットがありLNGを燃料とした船はすでに実用化されています。(2) ゼロエミッション(1994年に国連大学が提唱したもので、廃棄物を限りなくゼロにしようとするもの) 対応では、廃棄物の再利用などを通して排出を減らすことが期待されています。日本では、CO2などを排出しないエネルギー源として、水素やアンモニアを燃料とする船舶の研究も盛んに進められています。(3) 自動運航技術の実現に向けた取組です。船舶でも2025年までの実用化を目指して、自動運航の技術が開発されており、安全ガイドラインの国際ルール作りも並行して行われています。

造船は、海運産業だけではありません。わが国では、「J-Ocean」として海洋開発分野への進出を推進しています。日本では「洋上風力発電」への期待が高まっており、国のグリーン成長戦略において、2030年までに10GW、2040年までに30~45GWの導入目標が示されています。また、海洋資源開発においては、多くの特殊船舶が必要となり、探査船や掘削船・チャトルタンカーなど様々な種類がありこの分野への取組も進めています。

近年では海事産業への女性の進出・活躍も注されており、国土交通省では『輝け!フネージョ★』プロジェクトを展開しています。



出来なかったことができる可能性

「海事産業における女性活躍推進の取組事例集」より

現在の女性の活躍状況ですが、船員分野での女性船員の比率は、2020年時点で約3%に止まっており、他産業と比べてまだまだ低い状況にあります。しかし、近年では女性船員の数が増加しており、女性船員を雇用する、海運事業者の数も増えてきています。

「船内環境の改善」や「人間関係がよくなった」という意見がある一方、「船内設備の整備が困難」とか「セクハラの問題が心配」などの課題も挙げられています。

また、乗船実習中の女子学生からは、「体力面について行けるかどうか?」、「結婚・出産後も、仕事を続けられるか心配」という声もありました。

今回の研修を通じて

- ・世界に対抗できる日本の強みを生かした技術があること
- ・国内生産比率が高く、部品国内調達率も高いこと
- ・環境産業や海洋開発などの新分野への参入
- ・海事産業にも女性の活躍の場が広がっていること

などを知り、日本の海事産業が、今後もますます発展していく可能性を実感しました。

(梅谷康子)

## 尾道造船株式会社 ~造船所の見学と研修~



会社説明を人事課の担当の方よりしていただきました。ケミカル・タンカー、バラ積み船（バルクキャリア）の建造を主力とし、広島県尾道市に造船所を有し、日本でも数少ない「建造」と「修繕」の両業務を行っています。また、船づくりの工程についてもご説明いただき、下図のように完成に至るまで数多くの工程があることがわかりました。



さていよいよ造船所内の見学です。皆ヘルメットを着用し、船体建造課の課長様に引率・説明していただきました。幸運なことに、完成間際の大型船を見ることが出来ました。あまりの大きさに圧倒されましたが、まだまだ大きなコンテナ船などもあるようです。

今回の研修・見学を通して質の高い船舶を提供する為に社員一人一人が真摯に向き合い、これまで培われた技術と経験をもって船舶建造に取り組んでいる様子を知ることが出来、一方では、ダイバーシティも実現されており、特に女性の結婚、出産、育児において配慮がなされ、結婚後も仕事を続けることが出来ると聞きました。見学、研修により貴重な経験を致しました。  
(石村 芳子)





## 大和ミュージアム ～軍事技術から平和復興の礎への道のり～

大和ミュージアムは、広島県呉市にあります。  
明治時代、政府は三方を山に囲まれ、海に面した好立地としてここ呉に「鎮守府」を置き、大日本帝国海軍の艦艇製造所として栄えました。  
第一次世界大戦下、締結されたワシントン・ロンドン条約で10年間の新規戦艦製造中止は、建艦技術能力維持の面で大きな痛手を受けましたが、この失行を見据え、昭和9年、帝国海軍は、新たにその造船技術の粋を集めた史上最大最強の戦艦の設計を開始しました。



昭和12年起工、15年進水式、16年12月16日竣工。「戦艦大和」と命名されました。ミュージアムの模型は、10分の1のサイズではありますが、全長26.3m幅3.8m、とても巨大なものでした。時は第2次世界大戦、日本海軍の連合艦隊旗艦となり、昭和20年4月7日、乗組員3332人を乗せ、沈没。今も、徳之島西方20マイル水深350mの海底で眠っています。生存者276人。

昭和20年8月6日、広島市に原子爆弾投下、そして、8月15日終戦。呉は無残に廃墟と化し、戦後、海軍、船艇すべて解体されました。昭和25年5月、呉市はその未来像を平和産業港湾都市として復興、かつての海軍施設は、今は海上自衛隊となり、日本の安全を守っています。

また、艦艇製造で得た様々な技術は多方面に活かされ、新しい産業も生まれ左の写真は、マツダが当時生産していたオート三輪、今や広島を代表する企業へと成長。他にも、建造に使われた技術は戦後の高度経済成長を支え、かつての大和の設計者達

は民間タンカーの建造に携わり、後に造船業は「日本のお家芸」と言われるまでに成長しました。

今回の大和ミュージアム見学は、江戸時代の開国後、日本が歩んできた軍国主義、第1次・第2次世界大戦の悲惨さ、若き尊い命が沢山犠牲となった史実、戦争は繰り返してはいけないと感じました。また、此はこれからの日本を支えていく若い人達に伝えていくべきであると思いました。

しかし、その大和建艦技術能力の高さが、戦後、あらゆる分野で活かされ、成長して今の時代があるのです。

(川上 治美)

## 今治市村上海賊のミュージアム ～よみがえる村上海賊～

今回、今治市のミュージアムを訪問しました。村上海賊は現在能島村上家、因島村上家、来島村上家の3家の末裔の方々が活動されています。

2011年大ヒットした和田竜氏の「村上海賊の娘」をきっかけに3家が一堂に会され、また2016年には日本遺産「日本最大の海賊の本拠地：芸予諸島—よみがえる村上海賊の記憶—」の一つとして認定されました。



今回の今治市村上ミュージアムは能島村上家です。村上公一氏が父能島36代保一郎氏とともに貴重な多くの記録をまとめ作られた会館です。村上海賊は14世紀中頃から瀬戸内海を中心に海で活動した一族です。



江戸時代、秀吉による海賊停止令で姿を変えました。館内には古い旗や武士の鎧などや模型の関船(せきぶね)・安宅船(あたけぶね)、館外には実寸大の小早船(こばやぶね)がありました。

「上」の旗を掲げて船の無事の運航が守られていたようです。それにはお金も必要で、この旗を掲げて海での安全を保ってもらっていたようです。この「上」という字は村上家の上だけではなく「お上」という上だそうです。



水軍・海賊をの呼び方については諸説ありますが現在は海賊統一になったようです。最近では凧良ゆう氏の「汝、星のごとく」でも話題を呼んでいます。3家力を合わせてますます活動されます事を願いました因島村上家、来島村上家も訪ねてみたいと思いました。

(西村 温子)



## 「坂の上の雲ミュージアム」～明治を振り返り、未来へと思いを寄せて考える～

研修最終日の『坂の上の雲ミュージアム』は、愛媛県松山市の中心部松山城を頂く小高い山のふもとに在ります。司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』をテーマとし、2007年に開設、松山市が進める「物語のあるまちづくり」の中核を担っています。



設計は安藤忠雄氏によるもので、外壁一面のガラスには山の緑が映し出され、また各階は、ひと続きの緩やかなスロープでつながりまさに坂をのぼって行くかのように展示物を見て廻ります。

小説『坂の上の雲』は、ときは明治、松山に生まれ育った3人、秋山好古（あきやまよしふる）秋山真之（あきやまさねゆき）兄弟と、二人の幼なじみで親友である正岡子規が主人公です。



国力に圧倒的な差のある西欧の強国を相手に明治日本を近代国家へ仲間入りさせるため苦悩し奮闘した若者たちの活躍、明治維新から日露戦争までを描いています。50年ほど前、産経新聞に連載され、1296回 全てがミュージアムの壁一面に展示されていました。NHKテレビドラマにもなりましたが、映像化について司馬遼太郎は、軍国主義や戦争を賛美していると誤解されることを嫌い決して許可しなかったそうです。許諾されたのは司馬遼太郎没後のことです。



軍事・政治・外交・教育・文化など多くのテーマが重なり合った展示の数々です。東洋の小さな国に過ぎなかった日本が西欧諸国に追いつこうと 懸命に国づくりを行った姿がうかがえました。

前日の研修地広島では1週間前にG7サミットが開催されていたホテルにも訪れ、厳粛且つ歓迎の余韻を感じました。

ミュージアムで学んだ明治と現代を対比してそれぞれの息吹を感じます。



『坂の上の雲』の主人公3人が抱いた高い志とひたむきな努力、夢や希望。時代を振り返り、そして未来へと、思いを寄せる研修でありました。

(奥谷 かをる)

# 第35回 KYOのあけぼのフェスティバル 2023

学び・つむぎ・創造する輝く未来へ～文化の都 京都から～

日時：2023年10月21日(土) 10:00～15:00

場所：京都府総合見本市会館（京都パルスプラザ）

## Program

### ● 式典

主催者挨拶 京都府知事 西脇 隆俊 氏

実行委員長挨拶 田中 田鶴子 氏



京都府知事 西脇 隆俊 氏



実行委員長 田中 田鶴子 氏

### ● 京都府あけぼの賞表彰式

男女共同参画による豊かな地域社会の創造に向けて、女性の一層の能力発揮を図るため、様々な分野での先駆的な活動で功績の著しい、京都にゆかりのある女性5名と1団体に京都府から賞が授与されました。また今年には35周年を記念して、長年の活躍や功績を挙げられた1名1団体に「特別賞」が授与されました。



### ● シンポジウム

「今こそ知りたい京都文化～私たちに受け継がれた文化とは～」

・ 寶鏡寺二十九代門跡 田中 恵厚 氏

・ 衣紋道山科流30代家元後嗣 山科 言親 氏

・ コーディネーター 元KBS京都アナウンサー

特定非営利活動法人五節句文化アカデミア理事 村上 祐子 氏



時の流れの中で、人々の関心や興味が移り変わる時代にあっても脈々と受け継がれている京都文化についての紹介があり、それらを後世に伝えていくための取り組みや工夫についてのお話が交わされました。

### ● ワークショップ

今年のテーマは「日本の生命線 海運と造船」

5月に実施した研修旅行での見聞を取りまとめ、プロジェクターでの映像とともに、発表者のナレーションで報告させていただきました。(詳細は別ページに記載)

・ 尾道造船株式会社 ・ 大和ミュージアム

・ 村上海賊ミュージアム ・ 坂の上の雲ミュージアム

・ 自主研修成果発表

### 海外研修KYOのあけぼの会



### ● あけぼのバザール

24団体の出店参加による京都府産の農海産物・加工品や工夫を凝らした手作り雑貨・クラフトが販売されて生産者との交流で賑わいました。



# 入会案内

## 海外研修KYOのあけぼの会

私たちは、地域社会のリーダーとして、女性の自立と社会参画を促進する事業を実施しています。毎年の研修旅行では、さまざまな課題に先進的取り組みがなされている国内外の地を訪問し、実情の視察とともに率直な意見交換を交えた研修を行い、その後の活動の糧として男女共同参画による地域社会づくりを目指しています。

### 主な研修地

2003年	韓国：女性起業家との交流	2014年	長崎県 五島列島 世界遺産登録を目指す五島列島の地域活性化と女性の活動
2004年	湯布院：町おこしの先進地	2015年	広島・愛媛 戦後70年の原爆ドーム・近代化産業遺産別子銅山
2005年	米国アスペン：水力発電の源を訪ねる	2016年	ポルトガル 輝く女性を訪ねて
2006年	世界遺産 熊野古道：歴史・自然・環境から学ぶ	2017年	岡山県 真庭市 森林と共に暮らす真庭市でバイオマスツアー
2007年	スイス・チューリッヒ 教育・福祉等で活躍する女性と交流	2018年	パリ 活躍する女性を目指す京都とパリ
2008年	島根県 大田市 世界遺産・石見銀山の文化的景観を訪ねる	2019年	東京 働く女性の学び～過去・未来～武相荘にて
2009年	北海道 知床 世界遺産・知床の温暖化対策と流水トラストに学ぶ	2020年	京都府下丹後半島・美山・和東・乙訓 未来へ続く地域に根付いた持続可能な営み
2010年	イギリス湖水地方 ナショナルトラストに学ぶ	2021年	東北地方 白神山地 奥入瀬渓流 三内丸山遺跡 環境と調和
2011年	山陰海岸 大地の公園・山陰海岸ジオパークの地域おこし	2022年	奄美大島 環境との共存・奄美の女性の活躍
2012年	海洋島・小笠原諸島 自然保護活動		
2013年	デンマーク・ロラン島 風力発電・自然再生エネルギー		



2007年 スイス・チューリッヒで教育・福祉等で活躍する女性と交流



2012年 小笠原諸島の自然保護活動



2013年 デンマーク・ロラン島の風力発電・自然再生エネルギー



2014年 世界遺産登録を目指す五島列島の地域活性化と女性の活動



2015年 戦後70年原爆語り部



2016年 ポルトガル輝く女性を訪ねて



2017年 森林と共に暮らす岡山県真庭市の挑戦・バイオマス女子の活躍



2018年 活躍する女性を目指す京都とパリ



2021年 東北～環境との調和～



2022年 世界自然遺産奄美大島～生物多様性の島～

## 海外研修KYOのあけぼの会ご入会をお待ちしています

### ★活動にあたって

- 1.人とのつながりを大切に
- 2.実際に行動する
- 3.まわりの多くの人に伝える

年会費 3,000円(4月～翌3月)

ご入会のお問い合わせ・申込は

<http://kyo-akebono.com/membership/>

または TEL 075-761-3401 事務局 岡野

てるびっとバックナンバーはこちらからご覧いただけます。

<https://kyo-akebono.com/official-magazine/>



# 2024年度 海外研修KYOのあけぼの会研修旅行ご案内

- ◆募集人員：20名様 ◆旅行代金：1泊2日 117,000円（概算）＊別途保険料 500円（JTB 92,000円・あけぼの会別途当日徴収25,000円）
- ◆旅行日程：2024年6月16日～2024年6月17日 ◆旅程は変更になることがあります

## SDGs と 地方創生・持続可能な農業への取組

月日(曜)	予 定
1 6月16日 (日)	<p>のぞみ86号・普通席 大型バス・ガイド付き</p> <p>京都駅 9:48 名古屋駅 10:22 10:45 ホテルインディゴ犬山(昼食) 11:30 12:45</p> <p>丸重製紙企業組合SDGsツアー 13:45 ホテル 16:45 17:45 18:15 芳蘭亭(夕食) 18:30</p> <p>ご宿泊…名古屋プリンスホテルスカイタワー</p> <p><b>丸重製紙企業組合</b></p> <p>持続可能な街づくりの実践を学ぶSDGsツアー ～小さな美濃和紙メーカーの大きな挑戦～</p> <p>① 和紙専門店 Washi-nary &amp; 古民家ホテル NIPPONIA 美濃商家町 見学 ② うだつの上がる街並み 見学 ③ SDGs (まちづくり) 取り組み事例 講話</p>
2 6月17日 (月)	<p>ホテル 9:00 トヨタネ研究農場 10:15 11:45 菜飯田楽 きく宗 12:15 13:30</p> <p>認定NPO法人 子育て支援のNPOまめっこ 15:00 17:00 17:20 17:49 名古屋駅 のぞみ47号・普通席 18:23 京都駅</p> <p><b>トヨタネ研究農場</b></p> <p>農業の明るい未来に貢献 ～課題解決に向けSDGsを意識した研究農業の取組～</p> <p>① 研究内容の説明 ② SDGsの取組説明 ③ 変わり種トマトの試食??</p> <p><b>子育て支援のNPOまめっこ 交流会「子育て環境について」</b></p> <p>名古屋市北区で『親も子も主人公』を合言葉に、男女の共同参画社会の実現と地域のネットワーク作りを目指して活動しておられるNPO法人です。</p>

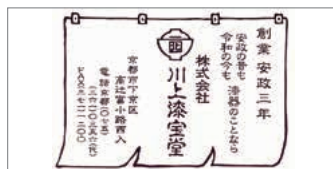
### 編集後記

今年には年始より大地震・航空機の事故などで、波乱の幕開けとなりました。いまだに戦争の終結が見えない地域もあります。今の日常がどのように成り立ち、どんな問題があり、持続可能な状態を維持するために私たちができることは何なのか?について今後も学び・考え・発信していきたいと思っています。

(梅谷 康子)

2024.3 発行 / 海外研修KYOのあけぼの会

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町85番地の4(岡野組内) TEL 075-761-3401 FAX 075-752-3034 事務局 岡野



男女共同参画に積極的にご参加の企業様に協賛をいただいております。